

新任教員紹介

氏名 小林 宏至（こばやし ひろし）

所属	人文学科 社会学講座
職名	准教授
発令年月日	2016年4月1日
最終学歴	首都大学東京大学院人文科学研究科博士課程後期（社会人類学専攻）単位取得満期退学、平成28年3月博士（社会人類学・首都大学東京）取得
担当授業科目	学部：生活文化論、比較社会文化論Ⅲ、文化人類学演習、民俗調査実習 大学院：社会生活伝承論、現代社会分析論
研究活動の概要	<p>研究は社会組織研究を目的とし、対象フィールドを中国東南部福建省、広東省、江西省の省境の山岳地帯を中心に居住するエスニックグループ客家に置いている。具体的には親族組織すなわち宗族とその独特の形態をもつ集合住宅である土楼、及びいずれともに関係する風水知識についてである。</p> <p>親族組織と風水に関する研究として客家社会における記録メディアとして族譜を位置づけ、その族譜が風水により書き換えられることを通して風水の構造を明らかにしている。親族組織と日常の人物呼称についての研究としてクローズドな社会では呼称によって属する親族が想起される機能を持つこと、すなわち呼称は社会的住所を示すものであることを明らかにしている。</p> <p>親族組織と土楼に関する研究として、世界遺産で紹介されている土楼内の祖堂が、フィールドの中では見いだせないことの記述から始まり、世界遺産でそのような言説が生まれたかを解明し、文化表象のグローバル化の問題を指摘して終わる。また、土楼内の風水の語りがどのように生まれ、語られ、消費されるかを論じたものとして、8つの室を風水の八掛に対応させる言説が生じ広がるプロセスを明らかにした論文がある。</p> <p>新たな方向として親族組織と土楼の建築を対応させ親族組織が土楼空間構成を形作り、逆に空間構成が親族組織を規定するものとなっていることを示したハウスソサイアティ研究を進めている。</p> <p>一連の研究は親族研究だけでなく、ものと社会の関係を問い続ける姿勢を持っているといえる。</p>